

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1426
施設名	碑文谷もみじの森保育園
施設所在地	東京都目黒区碑文谷 6 - 1 3 - 1
法人名	社会福祉法人信正会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光に触れて遊ぶ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園は公園内に立地し、四季の自然を身近に感じ自然に恵まれた環境の中で生活している。
日当たりの良い園舎であるため、子どもたちが日常の中で木漏れ日や影、反射などに興味を示す姿が見られたため、年長児のならではの行事にも絡めて興味関心を深められるよう活動を設定した。

2. 活動スケジュール

7月 キャンドル作り

お泊り保育で手作りキャンドルを灯す

11月 戸外活動にて影踏みをしたり、太陽の光に照らされる葉の様子を観察し楽しむ
遠足で博物館に行き、ライトアップされた展示物や光の動きを観察する

2月 カラーセロハンで海の生き物を作り、窓に貼って床に映る色を観察する

ライトテーブルの上に水槽を置き、セロハンで作った海の生き物を泳がせる

3月 卒園遠足で水族館に行き、ライトアップされた生き物を観察する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・制作棚
- ・キャンドル制作用品 (小瓶、塩、絵の具、ビーズ、 ミニキャンドル)
- ・カラーセロハン
- ・ライトテーブル
- ・アクリルケース

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・キャンドル制作
- ・お泊り保育でのキャンドルサービス
- ・戸外活動での光と影遊び
- ・園外活動で光に触れる (2回)
- ・カラーセロハンでミニ水族館づくり

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

保育室の床や壁に映る光を見つけて、「これはなに？」と興味を示す姿があったことから遊びをつなげる。

戸外遊びに出かけると、影を追いかけて影踏みをしたり、時間によって大きく伸びる影に気づき驚く様子や、落ち葉で影を作って動物などの形に見立てて遊ぶ姿も見られた。

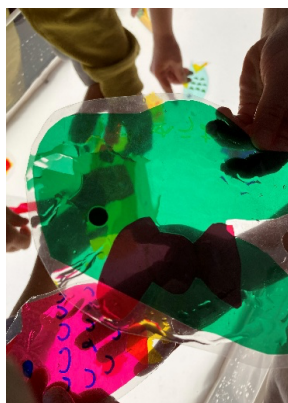
お泊り保育では、夕飯などを食べ楽しく過ごした後に、灯を消して子どもたちが制作した手作りキャンドルを灯し、特別な雰囲気味わった。

普段とは違う雰囲気で高揚していた子どもたちも、キャンドルに火が付いた途端、ゆらゆらと揺れるろうそくの灯の温かさを感じ取り、揺らぎに見とれる様子が見られた。

遠足では博物館のライトアップに魅了され、「ちょっとまぶしいな。」「明るくてよく見えるね。」など様々な声が聞かれた。

カラーセロハン遊びでは、自分のイメージした海の生き物を作り、窓に貼って光を空かして見ようとしたところ、カラーセロハンを通した光が床に映っていることに気づいて喜ぶ姿があった。保育室の電気を消して、ライトテーブルの上に乘せた水槽にカラーセロハンの魚を浮かべてみると、ライトに照らされた魚が重なり合い、色が変わる様子も見られた。「本物の水族館みたい！色が変わってる！」などの声が聞かれる。わくわくした表情を浮かべながら、次々に新作を作る姿が印象的であった。

1年を通して光に触れながら、ろうそくや電気、自然の光など様々な種類があることに気づいていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが自ら素材や道具を選び、主体的に活動できる環境の重要性を実感した。

子どもの気づきや発見を大切に、子どもの声を聴きながら活動を進めていくことで、集中して遊びこみ、子どもたちの「やりたい、やってみたい！」という気持ちが満たされ、遊びがさらに発展していくことを再認識した。また子どもの声を聴きながら活動を広げたことで、自然の光、電気の明るさ、ろうそくの明るさの違いに気づく姿も見られ、光への興味関心を深めることにもつながった。